

平成 29 年度第 1 回筑前町総合教育会議議事録（要点筆記）

開催年月日	平成 29 年 11 月 21 日（火）			
開催場所	筑前町役場本庁舎 2 階 庁議室			
委員の欠 出 (出席 6 名) (欠席 0 名)	職 名	氏 名	出欠	備 考
	町 長	田頭 喜久己	出	
	教 育 長 職務代理者	砥上 淳一	出	
	教 育 委 員	藤田 利津子	出	
	”	佐藤 純子	出	
	”	矢野 博一	出	
	教 育 長	入江 哲生	出	
会議録署名人	佐藤純子委員・矢野博一委員			
その他に の事 議 参 た 職 者 氏 名	職 名	氏 名	備 考	
	教 育 課 長	橋本 照美		
	生涯学習課長	松尾 和彦		
	教 育 課 学校教育係長	馬田 恭治		
	総 務 課 長	大武 一幸		
	総 務 課 行政政策係長	斉田 藤孝		
	総務課行政政策係	原田 知加子		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議に付した事件                      別紙のとおり</li> <li>・ 会議の経過                              別紙のとおり</li> <li>・ 傍聴人 0 名</li> </ul>				

	( 開会 13 : 30 )
斉田係長	ただ今から平成 29 年度の第 1 回総合教育会議を開催いたします。まず始めに町長からご挨拶をお願いいたします。
町長	この会議は 3 年目になろうかと思っております。法律改正がなされまして、町民の意見意向、住民の意向を教育にも反映させる。町の方も責任体制を作る・持つという趣旨で法律が制定され実施されているのだと理解しているところでございます。前回におきましても、学区の問題や様々な問題が出まして、1 つの成果といたしまして、学区問題をベースに要望活動を行ったところ、来年からは本町からも小郡高校に行けることになりました。子ども達にとっては選択肢が広がったと解釈していいのだろうと思っております。そういった根幹となるような議論ができる場になるかと思っております。私共も率直に、行政的な立場から住民から選ばれた首長として意見を述べさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。
斉田係長	ありがとうございました。続いて議事録署名人の選任です。今回は佐藤委員と矢野委員をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。
佐藤委員 矢野委員	はい。
斉田係長	ありがとうございます。では早速 ( 4 ) の協議・報告事項に入っていきますと思います。これより町長の進行をお願いいたします。
町長	私が進行するようになっていきますので、進行させていただきます。早速、協議に入ります。まず ( 1 ) 学力向上の施策について、教育課の方から問題提起・提案をしていただいて、この議論を深めたいと思っております。よろしくお願い致します。それでは、教育課長。
教育課長	はい。平成 30 年度以降の学力向上のための施策として案を作成しております。3 つの柱を中心に作成しておりますので、詳細については、指導主事から説明させていただきます。
町長	ではお願いします。
大内田 指導主事	筑前町学力向上のための施策 ( 案 ) としまして、3 つの柱を立てさせていただいております。まず、柱 1 の英語教育でございます。簡単に申しますと、英語教育の充実に向けて、次期学習指導要領の改訂、来年度からの先行実施において、外国語科 5 ・ 6 年生が年間 70 時間、外国語活動が年間 35 時間の実施を 3 ・ 4 年生が行っていきます。また、高校入試・大学入試改革に伴いまして、いわゆる話す・聞く等の力が求められている現状であります。その流れの中で、ALT 2 名を本町で雇用しておりますけれども、それを 5 名に増員し、小学校における英語教育、または中学校の ALT 等ふまえた充実を図っていきたくて考えております。その際、現在両中学校に配置しております町雇用の英語科担当教員の 2 名を置いております。中 1 ギャップという名目でございます。そこの部分の配置は行わず、小学校教育の英語教育を充実させる

ことによつての中 1 ギャップも含めた解消ということ踏まえ、2名から5名に増員し、英語力の向上を柱1として高めたいというのが一つでございます。二つめが放課後学習の実施でございます。後で詳細は述べますが、現在各学校が実施しております放課後学習がございます。とりわけ学力が厳しい子ども達に対しての充実であります。今後、放課後学習の充実、教職員の負担軽減のための、生涯学習課が主管で行ってまいります放課後子ども教室を活用して、中牟田小についてはアフタースクール、残りの小中学校においては学習のみの放課後学習を実施したいと考えております。詳細は別途お話しします。柱の三つめが特別支援教育の充実でございます。現在、通常学級に在籍する発達障害等を含めた支援を要する児童が増加しております。本年度より通級指導教室が1つ開設しまして、通常学級の子ども達が専門的な立場から通級で受ける、それから支援員も14名の配置で様々な施策を行っておりますが、この増加に伴いまして、個々の特性に応じた支援を充実させるために、各担任が専門的立場からの支援力指導力の向上を図ることが求められていると考えております。これから先、増員等は中々厳しい状況があると思ひまして、医療機関との連携を将来考えているところです。その中でも、子ども達が近隣ではこぐま学園さん等療育に通っております。その中の療育として作業療法士等の支援を受けながら療育を行っているわけで、この専門的な療育の知識を本町の小学校・中学校において連携して図っていけないかということを考えております。このことは実は学力向上の基盤である学習集団として支援不十分が故に、子ども達が非常に落ち着かなくなってしまうという状況がございます。このことが学力向上の基盤である学習集団のとして学級経営の充実につながると考えております。来年度につきましては全国的にも連携している自治体はございませんので、ある意味では研修を通して療育の必要性を学んでいきたいと考えております。次に、放課後学習についてでございます。実は放課後学習について図で示しておりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が一部改正されまして、学校運営協議会（コミュニティスクール）ですが、地域学校協働活動推進委員として置くことができるような変更がなされました。また、右側の社会教育法の一部改正に伴いまして、この推進員を委嘱することができる法律改正がなされました。そこでこの推進員ですが、地域学校協働活動として真ん中にあります「協働活動」「体験活動」、これは現在もやっておりますが、地域と学校をつなぐコーディネーターとしての役割を意識化させていく実動させていくという目的でございます。この推進員を利用して、放課後の学習指導にも推進員を利用した事業を、国・県が実施し行いますので、その事業を活用しながら放課後学習ができないかと考えているところです。この委員の委嘱につきましては省略をさせていただきます。小学校につきましては、中牟田小はアフタースクールを継続しておりますが、これは来年度も継続。これは学習と体験活動を実施しております。残りの3校については参考①で示していますように、放課後学習を各学校実施しておりますので、ボランティア組織の拡充を図るこ

とも含めた事業として、3小学校で放課後学習を実施していきたいと考えております。その際、三輪小・東小田小については学童保育との連携を図るということを考えております。次が中学校の放課後学習についてでございます。これにつきましては、民間塾または新たな事業展開を実施しようとしております。高等学校退職校長会に委託を検討しまして、毎週2時間夜ですが、19時から21時をベースに先ほど申しました推進員・教育委員会が連携を図り、仮称で申しますが、「筑前町学び塾」として英語数学に特化して講座形式の学習を検討しております。参考としまして、三輪中・夜須中を示しております。それから参考③としまして、高等学校退職校長会の取組み、来年度に向けて事業を検討しているということです。それから参考までに那珂川町の取組みを少し述べていますけれども、「家庭学習のトライ」に委託して、このような流れの中で例えばですが、1週間の内に月曜日・水曜日を夜須中、火曜日・木曜日を三輪中。募集人数は40名の3学年で120名。実施にあたっては20名の少人数6クラスで検討しています。受講料として月2,000円の受益者負担、教材費は別途で考えております。受講者につきましては、講座に希望する生徒並びに基礎基本の定着・家庭学習の習慣化に課題を抱えている生徒、いわゆる厳しい学力状況の子どもも含め、ある程度力を持っている子どもを含めて2クラスに分けての実施を考えております。その他ですけれども、夜間になりますので、学び塾の送迎については保護者の責任の下。実施にあたっては、保護者にも理解が必要ですので、事前説明会を行うことが必要かと考えております。それから事業経費等についての計算したところで、一度退職校長会との連携を考えております。校長会の担当とこの前お会いしまして、1コマあたりの金額はどのくらいで実施できるか相談しながら考えまして、時間単価の3,000円で計算しております。その他経費、それから受益者負担ということで考えております。国県の補助は含みませんので、この補助率が出てくるかと思っております。具体的な事業内容については、当面英語と数学を中心に実施していこうかと考えております。運営にあたっては、英語指導者3名、数学3名、退職校長会の元校長先生並びに教員を志す先生方も含めて実施。教材等については、民間企業等とベネッセ等も含めて、教材・資料は提供いただくような連携を図って見たらどうか。あと教育課としても関与していくこととなります。具体的な予算を最後のページに載せております。詳細な説明は省略させていただきますが、この資料の一番下の左側です。中牟田小のアフタースクールを含め、この活動推進事業を1,315万8,710円、歳入として受益者負担450万円、補助金約450万円の約900万円。町費としては約400万円の予算で非常に金額がかかりますけれども、子ども達のためにこの事業を活用して実施できないかということで検討したところでございます。以上、詳細は省いておりますが、今教育課として考えている事業の説明でございます。

町長

はい、ありがとうございました。これは平成30年度の案ということですが、まだ素案の段階で、この会議も踏まえて判断していくということですか。

大内田 指導主事	はい。
町長	かなり一歩進んだ取組みではなかろうかと思うところですが、それぞれご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。
砥上教育長 職務代理人	<p>先日中牟田小学校で筑後地区の算数の授業の研修がありまして、北筑後地区の校長先生とお話しましたが、この町はうらやましいと。電子黒板が入って、子ども達も先生たちも活用している姿を見て、自分たちの町でも是非予算化したいとおっしゃっていました。非常にうれしい話題が出ました。町長がいつも言われるように、塾に行かなくても学力を高める。家庭に負担をかけない学力を養いたいということを言ってありますので、具体的なことは別として、このように反映されるのは非常にうれしいことです。特に経済的に厳しい子ども達が、経済格差が学力格差になってはいけなと。決して子どものせいでもなんでもないわけですから、町として取り組んでもらうということは非常にうれしいことです。学力を上げていくには素晴らしい方法。もちろん予算が伴います。税金ですので町民の理解を必ず得る必要がございますけれども、一方この前県下の教育委員の研修がありまして、新宮町の学力が非常に高いということで、小学校も中学校も全教科全国県レベルをはるかに上回っているということで報告があったんですが、その中で特に指導していることは、姿勢正しく、ノート指導、整理整頓、学習規律ということの報告がありました。よく聞いたら、これは三並小学校でしているとおりのことなんですよ。三並小学校が、三並っ子学びのルールというのを作って、6年間この学びのルールを守らせた上で中学校にあがっていくと素晴らしい学校になっていくんですね。そういうことを新宮町もやっているんだなど。三並小学校もこれをやっている。全町でやっていくべきなんだろうと思います。特に学力向上というのは英語力強化ということで、筑前町の総合戦略ハッピープランの中でも英語の取組みということあげておりますし、今後の30年～31年の英語力強化という報告もあっております。それと照らしてもおかしくない内容だと思いますので、やり方と予算の関係だと思います。退職した校長達は弱い子・学力が劣る子をどのように指導していけばよいかということに非常に長けておりますので、こういう施策というのは私は大賛成ですね。</p>
町長	ありがとうございます。それぞれこういった今までにない施策ですね。このような取組みについてどのようにお考えでしょうか。
藤田委員	<p>中学校の学力実態調査は年々向上してきている反面、家庭学習の時間は年々非常に低いという調査の結果が出ていまして、家庭学習をするように呼びかけても、実際に子ども達は家ではスマートフォンをとかを扱っている時間が長いという現状をどう変えていくのかといったときに、「筑前学び塾」というこの計画は、子ども達の学力向上に向けて取り組めるとてもいい内容だと思います。議員からも私に質問があってですね、他はどうですかねと言われたので別の町の例を話したことがあります。そこは塾の先生を町に呼んで中学生に指導しているんですが、費用が伴います。退職校長会という組織</p>

	<p>があって子ども達への指導の事業を展開されるというのを初めて知りましたので、保護者負担が 2,000 円ありますが、塾に通わせることと比較すると非常に少ない金額で済みます。町の負担はかなりかかりますが、5年間くらいやってみて、その結果どうかというのを検証することも必要かなと思います。</p>
町長	<p>ありがとうございます。どうでしょうか。</p>
矢野委員	<p>英語教育の件ですが、外国語科が5・6年生は年間70時間、外国語活動が3・4年生は年間35時間ということで先行実施の予定なんですか、今現在は小学校で英語の勉強をどれくらいの時間されているんですか。</p>
町長	<p>はい、お願いします。</p>
大内田 指導主事	<p>現在は外国語活動としまして、5・6年生が35時間でございます。それが決められた時数でございまして、あとは3・4年生でも1・2年生でも時間が余ればやっていいということで、現状としては3・4年生でも最高で年に3時間くらい、ALTにちょっと経験をという時間をしております。だから現在35時間ですが、週に1回だけ外国語活動5・6年生があっているという状況で、ALTとの時間に担任とともにかかわっている部分になります。</p>
矢野委員	<p>今度、中学校の2名の英語科担当教員の配置は行わなくて、ALTの増員の方になっているんですが、最初説明があつた中1ギャップで英語の理解を深めるために英語科担当の教員を置かれてあつたと思うんですけど、それがあつたからこそ今年の英検3級の三輪中の3年生の合格率が約49%という結果にもなったんじゃないかと思うんですよね。ALTを増やすことによって中1ギャップの時間ですかね、ALTが中1にかかる時間を増やせるとかそういう風な考えがあるんですか。</p>
大内田 指導主事	<p>まず、一つは英語科に特化して配置したのは今年度のみでございます。昨年度までは数学または英語ということで行ってまいりました。ひとつは、英検の合格について改めて効果があつたなと思いますのは、全員に受験という機会を与えることによって子ども達全員が目標を持てた。そのことによって、指導する英語教員も意欲を持つことができた成果だと思っています。今年初の試みですので。少人数・町単独として配置したことについては、もちろん英語の時間の充実もありましたし、事務負担の軽減ができたということがございます。ご指摘のように、中学校の英語科の教員が小学校に行くということも考えました。そうなりますと現状の人数のままの状況ですので、どうしても移動が伴いますし、全ての小学生に中学校の英語科教員が入れるかというと、とても半分くらいしか入れません。そうしますと初めてスタートする外国語科で、1人で外国語科を指導していかなきゃいけなくなります。そういう理由から、確かに中学校においては少し今まで優遇されていた分が減りますが、その面はですね、今の英検でありますとか放課後学習で英語も入れていくということも含めて、サポートしていきたいと考えています。また、ALT5名ということは、中学校に常駐で1名いるようになりますので、中学校におきましても、週に1回しかALTが関与しませんでした。若干ALTが増</p>

	<p>えていくということの効果も考えられます。何よりも小学校で ALT と 4 年間活動を一緒にして慣れ親しむということが根底にあって、外国の方と出会った時に話すというスタンスが将来社会に生きていく上では効果が高いと判断して、移行措置の 32 年度まではその体制でやって検証しようかと思っているところです。</p>
<p>砥上委員</p>	<p>中 1 ギャップの話が出ましたが、結局中学校に入って一番躓きやすいのは英語と数学なんですよ。教育課が考えていることは、学習指導要領が 2020 年から正式に小学校 5・6 年生は事業時数も増えるし、それを通知表できちんと評価しなければならない。3 年生については、正式な活動として各学校とも実施しなければならない。小学校の間に一生懸命英語を学ばせれば、中 1 ギャップがなくなる。中学校入って英語を習っても、もう習ってきたことだからその延長線としてできるということがメリット。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>先日行った教育委員会の研修の中で、とても参考になるというかですね、学力向上に対しての異なった指導方法で発表がありました。埼玉県は戸田市と竹富島。戸田市は学校がマンモス校で、戸田市だけで子ども達が多く、平均年齢が約 45 歳というものすごく若い年齢だそうです。竹富島は小中学校全校生徒 430 名くらいで、複式学級くらいの授業をされているようなところです。戸田市は最先端の小学校のプログラミング教育とかアクティブの教育みたいなのを実際的にやっているんですが、それで学力はものすごく高い。竹富島はコミュニティスクール・地域一体となって、体験学習をいれて色々な体験をされている。竹富島は戸田市と変わらないくらい、トップレベルの学力だそうです。だからそういったことについては、結果としては助言者の文科省からも、「教育方針が全く異なる学校でそれぞれの成績がアップしている。このことについては、いい発表だった」と言われてました。竹富島が伸びているというのは、自分たちが何で勉強しないといけないかという、そこを理解されていると。そして、戸田市については学力はとても高いが、何のために勉強しているか意欲が全くない。向上心・自己肯定感が低いと。かたや、ものすごく自己肯定感が強いし、学習意欲があると。だから、これについては実際的に自分が勉強しないと、15 歳になったら島を出て行かないといけないという自立心で、周りの兄弟が高校進学する、大学に進学する、じゃあ自分もしっかり勉強してその学校に進学するためには勉強しないといけないというような状況で自己肯定感が高いんじゃないかと。今度筑前町についてもこういった放課後授業をされているんですが、学校の学習と同じような延長線で詰め込み式の学習をしても、何のために勉強しているかという自分の意欲につながる学習ができないのではないかなと。何のためにこの英語が必要だ、数学が必要だということの大前提をですね、しっかり将来自立していくためには今度から英語は必要だということで学んで、本当に詰め込み式ではなくて、自分たちから進んであ〜わかった、できるようになった、じゃあ英語を活かして、自分は将来的にこういう職業に就けるんだという、そういったスタンスが必要かなという気がいたします。</p>

町長	はい、そういった立志式は様々にやってあると思います。動機付けの前提条件、この辺りは家庭学習の問題が大きくクローズアップされるかと思いますが、なにか説明があればお願いします。
大内田 指導主事	英語教育につきましては、手段が目的にならないようにという、英検もあくまでも手段でございまして、その先に子どもがそれを使うと、使って人とのコミュニケーションができる。しかしながら、そういう環境が、例えば萩市とかでいきますと、外国人がたくさんおりまして日常的にコミュニケーションを図れる現状がございまして。本町では APU と連携を図っております。現在は定員 40 名に限定して連れていっております。行けば全てのオールイングリッシュで過ごしますが、今構想としましては APU から学生をもう少し多く、バス 2 台の 90 名くらいこちらに連れてきて、学校に全て配置させてコミュニケーションを図れる環境を一つ整えて、取得した英検を受験のためだけではなくて、多様な国の方々と英語を通じたら、韓国籍の方とも話せる、ベトナムの方とも話せるような経験を同時に作っていきたい、そのことを目的としてモチベーションとして将来つなげていきたい。放課後学習につきましては、ひとつ特徴的なのは、高等学校の教師というのがございまして、将来の進路でありますとか、これから先のことも含めて高等学校の教諭だからこそその将来像、なぜ勉強が必要なのかを含めたモチベーションを図るきっかけになるように、委託先としてもし決定すればその旨も伝えていただくような環境にしたいなと思っております。おっしゃるとおり、モチベーションがないと学力がつかないのが前提です。
町長	これはあくまで任意ということでお考えですか。本人の希望ということですね。
大内田 指導主事	はい。
町長	どれだけ集まるかというのも、魅力があるかないかによって、魅力がないなら 2 年目から来ないでしょうし。今の意見をそれぞれお聞きしますと、このような取り組みについては一歩先というか、社会が変化していると。オリンピックが来て、外国人も来るよと、本町にも来るよという話になるでしょうし、社会においては英語化が進んでいるというのが、案外うちの町は田舎で、ちょっと疎いところがあるんじゃないかと。そういったところを我々専門家的な立場の人達が、半歩先を見て仕掛けるというのは大事なことなんだろうという風にお聞きしたところです。こういった新たな取り組み、公共的な金銭問題も含めて取り組んでいくことについては、賛成の方が多いとそのようにお聞きしました。行政の方で色んな場に出て行きますが、英語教育に力を入れているところが非常に多いんですね。町ぐるみでやるようなですね。そのようなところと比較すると、本町は少し遅れているかもしれません。だからこそやらなければならないんだと。うちの子ども達はかわいいですので、劣らしちゃいけないなと思います。子ども達にも情報を伝えながら環境作りをやっていく必要があるのかなと思ったところです。ヤクルト工場の関係で交流

	<p>のある岡山県和気町というところがございまして、そこは教育が非常に優れた町です。どのような取組みをしているか事務局が調べておりますので、説明をお願いします。</p>
<p>総務課原田</p>	<p>総務課の原田と申します。岡山県和気町の公営塾について説明します。こちらの町では、独自カリキュラムを組むことができる英語特区の許可を受けており、その一環ということもあるかと思いますが、無料の公営塾を行っています。平成28年4月に開講し、この事業専門で採用された地域おこし協力隊がカリキュラム作成等の運営に関することを行っているそうです。場所は商工会所有の建物で、この事業の趣旨に賛同して無償で貸与していただいたそうですので、場所代はかかってないとのこと。主に人件費が一番費用がかかっているそうです。対象は小学5・6年生及び中学生で、毎回30～40人の生徒が受講しているそうです。また毎月第4土曜日には、幼稚園・保育園児～小学4年生を対象に「公営塾キッズ」も開講しており、幼稚園～中学生間までの幅広い層を対象として英語教育を提供できるようになっています。簡単に説明を終了します。</p>
<p>町長</p>	<p>ひとつの事例紹介です。町をあげてやっているんですが、ポイントは地域おこし協力隊に事務局的な役割を担わせているということです。事業展開には人が必要です。特に人件費というのは非常に重要でありまして、一人ではなかなか困難です。そういったときにサポートする地域おこし協力隊とか教育に関心のある人材を確保して、むしろ事務局的に確保して運営していく手法もひとつの方法。地域おこし協力隊というのは3年間、国が人件費を出すわけです。今までは観光等に力を入れておりましたけども、教育もひとつの地方創生ですから、このような人を活用することによって今の事務局体制のサポートができるのではなかろうかと。あるいはそれ以上の事ができるのではなかろうかと。もちろんこのような募集するとですね、力のある隊員もおりまして、指導できるよという人も出てくるかとも思います。そのようなこともありますので事例紹介させていただきました。こちらの町とはヤクルト工場の関係で親しくさせていただいております。なぜこのように教育に力を入れるようになったかということですね、かつて名門校があったそうです。しかし、人口減少とともにレベルが下がってしまったそうです。それをなんとかしたい、学問の町なんだということで、地域おこし協力隊等を活用してレベルアップを図り、多くの子ども達が集まるようになった。それで町全体が学力向上していると。やはり英語の重要性というか先駆性を数十年前からしっかり認めてですね、そういう風に取り組んできているという。そして特区という非常に特別なことができるような申請まで行っているという、こういった町もよそにはあるという事を紹介させていただきました。</p> <p>中牟田小が今先行していますよね。他の小学校は例えばこの案で行きますと、平成30年度についてはまだこの状態が続いて行くことになるんですか。ある程度レベルに合わせた内容が進められることになるんですか。</p>

大内田 指導主事	アフタースクールにつきましては1年目でございます、生涯学習課の地域活動指導員も含めて、教育課の指導主事2名も含めて、行政的な機関が関与してきています。その中でボランティアで教員免許の有資格者が増えてきて、徐々に体制を整えてみて来年度以降やっていこうという方向性でございます。今後同じようなことをやっていきますと、他の三輪小・東小田小にしても、コーディネーター・人材確保の必要があると思っております。そういう意味でアフタースクールにつきましては、全く学校とは離れてやっていきますので、あと1～2年手法を積み上げていきたいと考えております。
町長	その辺りは生涯学習課としてはモデル的に先駆的というのはいかにわかるんですが、おそらく他の学校から不満が出てくると思うんですね。その点についてはどのように理解する、スピード感を持つというのはいかに考えたらいいでしょうか。あくまでも補助金があるから今はやれるということですか、それとも人材が確保できるからやれるということですか。
生涯学習 課長	まずは人材が確保できるということですね。そのようなボランティアの方がいないとできないと先ほど主事が言いましたが、学校はノータッチと。あくまでも外部の地域の方がいないと運営はできないということで、中牟田が先行で行っていますが、資料にありますように他の学校でも学習だけの放課後学習をやっていくという。
町長	この予算は。
生涯学習 課長	生涯学習課です。放課後になるとうちの予算です。
教育長	放課後の地域活動協働事業というのが、これが生涯学習課の予算です。
町長	この会場は全て学校を考えてあるんですか。
生涯学習 課長	そうですね。現在中牟田は多目的室から今学習している教室に変わってですね、そこを使って今やっているところです。他の小学校もそういう風になるのかなと。
大内田 指導主事	そうですね。中牟田が今回実動できるのは、実は弥四郎学び塾というのがひとつありまして、これは地域・保護者の方がマンツーマンで子どもを指導していただいて、いわゆる運営の方も含めて地域の方が主体的に動いています。そこが母体となって、アフタースクール的なところの人材が広がっている現状です。この度他の学校を、三輪小・東小田小・三並小とやっていきますがどちらかと言いますと、中牟田が今補助等していませんが、弥四郎学び塾のように地域のボランティア等が組織化され、自分たちで子ども達のために何か力になれないかという基盤ができれば、その方々が同じように三輪小アフタースクールの人材として活動できるかなということを展望としては少し感じています。教室については全て学校を利用させていただくことと、中学校につきましては40名ですが、基礎コースと発展に分けたいので6教室利用したいと校長先生に相談しましたところ、きちんと管理していただければ

	<p>ひ使っていただきたいということでしたので、それだけ必要になりましたら学校が一番適切かと思えます。</p>
町長	<p>どうなのでしょう。中牟田は自発的に生まれてきたというか、なかなか自発的は難しい問題がありまして。</p>
砥上教育長 職務執行者	<p>前からですね、先ほど言った塾等の「放課後のエンジェル」というお母さん達や公務員をしていた方達が中心となって、そういうボランティア活動をしてありました。それから入っていきやすかったんですよ。</p>
町長	<p>では他の学校は様子を見てということですが、正直なところ自発的にと期待するのは困難な部分があるのではないのでしょうか。その辺を子どもの立場で考える必要があるのかなど。誰が思い立とうと、町が思い立とうと、親が思い立とうと、子どもにとってはどちらでもいいわけです。我々教育関係者としては責任を感じる場所ではないのでしょうかね。中牟田が実践して成果ありということであれば、それは子どもの立場で誰かが起こさなければいけません。それが地域おこしの原点です。今の事務局が人員不足ならば、人的な対応も必要でしょう。ただ効果の有無の判断が3～4年もかかるのでは、その時の子ども達はいないわけです。できるだけスピード感をもって行うのが我々の責務だろうと思っておりますので、私ども行政の方に何か行えることがあれば考えていきたいと思えます。また、生涯学習課であろうと教育課であろうと子ども達にとっては本当に関係ない話ですので、連携とってやっていただきたい。</p>
生涯学習 課長	<p>よろしいですか。今中牟田でやっておりますけども、今来ているのは41名。1年生～4年生までです。4年生が1名で、あとは低学年です。1年生～3年生までがほとんどでして、この子たちが来年学年が上がってそのまま来るのか。あるいは新1年生が入ってきますので、それでまたその子たちが来る可能性もあります。8割くらいは学童保育に行っている子どもが来ているのが実態なんです。41名の内、28名か29名くらいが学童保育から1時間、4時～5時までアフタースクールにきて、5時から先はまた学童に戻るとというのが今の実態でございます。</p>
町長	<p>ということは、この提案の趣旨と若干ずれると。学童保育の参加者が非常に多く、保育的な意味合いが強いと。アフタースクールで英語とか数学とか教えるんですか。</p>
大内田 指導主事	<p>小学生につきましては、基本的に国語・算数です。</p>
町長	<p>やはり勉強はすると。</p>
大内田 指導主事	<p>はい。この事業が放課後児童クラブ、学童と放課後の一体型ということで、居場所作りも含めて様々な体験をさせる環境を整えるというのがひとつございました。そういう意味でアフタースクールの目的はどちらかというとそうなりますけども、新たに来年度から実施するのは、学力向上に特化したものです。</p>

町長	なるほど、その辺の目的が違う。
大内田 指導主事	はい、少し違います。
町長	この間、三輪小学校の発表会に行って、英語クラブというのがあったんですが、あれは何ですか。英語クラブが寸劇をやってくれたんですが。
大内田 指導主事	あれはクラブ活動の一環として、重点的に英語教育を行う活動しています。
町長	では、アフタースクールは少し意味合いが違うというか。指導者も生涯学習的な意味合いの時間を作っていくという方が多いんですかね、中牟田小は。
生涯学習 課長	そうですね、この事業自体が地域学級協働活動事業ということで、地域と学校が一体となって子どもを育てましょうということですので、地域の人の協力が必要ということでございます。
町長	例えば、英語をやりたいなら英語、スポーツをやりたいならスポーツをするというようにやってもいいわけですね。それは地域の人たちと学校の判断で進めていくということですね。
大内田 指導主事	そうですね。中牟田小の体験活動と学習活動は分けておりますが、体験活動については、将来的には子どもがやりたいことを提供する大人という関係の中で方向性を示しています。地域の方が手品好きであれば手品を、英語の先生がいれば英語を体験としてやっていく。学習については、やはり学習習慣をきちんとつけていくという意味と専門的な指導主事も入りながら、きちんと勉強するというところの要素が強いような感じですね。
町長	その辺を明確にしとく方が子ども達にとってもいいでしょうね。わかりました。ではこのアフタースクールというのは、学力向上とストレートに結び付けられない方がいいと、そういうことですね。
大内田 指導主事	そうですね、はい。
町長	それぞれに自発的というか、サークル的に色々行い、それには学校の先生は全く関知・関与しないと。
大内田 指導主事	はい、中牟田小アフタースクールにつきましては関与しないということですよ。
町長	はい、分かりました。それでは教育課が提案された分について、色々意見をいただきました。この会議としてはですね、積極的にこれをベースに更に工夫して取り組んでいただきたいということになるかと思えます。ただ町的に考えれば、スクラップも必要なんです。教育に予算を充当するという事は、どこかの予算を減らしているわけなんです。補助金という方法もありますが、一般財源というのほどどこかを増やせばどこかを減らさなきゃいけないわけなんです。教育予算については、本町はかなり割合的には多い方だと思います。そのことは私も否定はしませんが、スクラップしてダイエットできるのであれば、是非それとセットして提案されるというのは非

	常に住民の共感も得やすいんだろうと思います。何かスクラップすることがあれば併せて提案していただけると本当に子ども達のためにもなるかなと思いますのでお願いしたい。ただ、これは正に積極的な攻めの予算だろうと思います。私としても町としても積極的な予算は考慮したいと思います。ただ先ほども申しましたが、どこかダイエツトできるのであれば、査定の折にでも報告していただければと思います。特に ALT が 5 名になるんですよね。
教育長	この中でも先ほど説明があったように、ALT が 2 名から 5 名になって 3 名増えます。中 1 ギャップの関係で置いている職員分をカットしますので、一部ではそういう身を切る部分もあります。
町長	今まで 2 名の ALT はその 5 名の中に含まれるんですか。
教育長	はい。
町長	では、プラス 3 名の ALT が入って、その人たちはこれにはかかわらないんですか。
教育長	これにはかかわりません。今中牟田小以外には推進員を配置してですね、事務局みたいにしてコーディネートする人ですね。地域から選んでいただいて、町が委嘱する。その経費については県の方から 3 分の 2 補助が出されるということです。
町長	はい、わかりました。トータル的にどうなるかはわかりませんが、極力努力はお互いにしたいと思います。それと退職校長会というのは、退職された校長先生が直接出向いて教えることもあるし、学生というか教員の卵の方が来る場合もあるということですか。
教育長	はい。退職校長会の方と大内田指導主事が先日打ち合わせを少ししてきておりますので、その辺の情報があつたらお願いします。
町長	これは貴重な他にない取組みだと思いますので、もう少し教えてください。
大内田指導主事	以前朝倉高校で校長をされた方を中心に、何かしら地域に貢献したいということで今立ち上げようとしている状況でございます。一つ考えていらっしゃるのが、進路指導に関わる事業を展開したいということです。これは各高校が進路説明会等をやっている部分を、これから負担金を含めて担っていきたいということです。もう一つの事業が、小学校も含めてですが学習支援事業を展開したいということです。退職校長会の先生方の生きがいプラス若手の人材育成も含めてチームティーチング的な要素で、講師の先生等も一緒に連れて指導にあたっていきたいということまでをお考えでした。また、民間企業とも退職校長会自身が連携を図りたいと考えてあります。教材の提供でありますとか人材の確保も含めて。抽象的ですが、そこまでです。
町長	これは校長の先生だけの組織ですね。
大内田指導主事	はい。現職の校長先生方にも相談を投げかけて。

町長	退職校長会としても初めての取組み。
大内田 指導主事	はい。
町長	それをうちの町でモデル的・実践的・先駆的にもやってみようというお話をいただいたということですか。
大内田 指導主事	はい、そうです。将来的にはエリアを広げていきたいという展望を持っていらっしゃるそうです。
町長	ぜひ進めてほしいところですね。
大内田 指導主事	1点の懸念は、人材確保です。
町長	そうでしょうね。ただ教育力はすごいでしょ、校長先生までなられた方ですし。
藤田委員	中学3年生の数学を教える力は、今は小学校相手の教え方をしているから、高校を経験されている先生が中学の英語や数学を指導されるのは本当にありがたいことだなと思います。内容が高いからですね。
町長	内容を熟知してあるでしょうね。
藤田委員	募集人員が40名ということですが、募集人員が上回ったらどうなるんですか。
大内田 指導主事	基本的には抽選になるかと思います。
町長	これは早速30年度からの取組みということですので、更に具体的に進めていってもらうように、この会議では決定させていただくということによろしいでしょうか。
全委員	はい。
町長	続きまして、次の議題に入りたいと思います。 子ども議会についてです。これは議会の方からも一般質問が出ておりました、これについては検討しますという前向きな答弁をしているところであります。この件について、教育課としての今後の方針、あるいは事務局として把握している情報を紹介して議論を深めたいと思います。教育課からお願いします。
教育課長	はい。子ども議会を実施するとした場合、学校教諭の負担・事務局の負担等発生しますので、どの程度どういった規模のものでやるかということを考えておりました。やるからにはきちんと効果のあるようなものを実施しないといけないですし、もし筑前町でやるとするならばここまではやれるのではないかという案を作成しておりますので、こちらについて大内田指導主事から説明していただきます。

大内田  
指導主事

まず趣旨ですが、未来を担う子ども達が、筑前町の身近な地域の問題や将来のまちづくり、教育の問題などを質問したり意見や提言を発表したりする町議会の模擬体験を行うことで、行政や議会の仕組みを学び、町政・議会活動への関心を高めることを目的として実施します。子ども達の声が町政に反映できればというのがありますし、そういうWINWINの関係で議会というものが意味のあるものになればというのが目的でございます。他自治体を少し参考にしながら示しておりますが、主催は筑前町、町議会、町教育委員会の三者を位置付けてみました。開催日時は、子ども達が議会を学習するのは年度末の2月辺りになりますが、やはり時間的な子ども達の余裕と施策の実施を含めて8月を想定して考えてみました。場所は議場でございます。参加者は子ども議員として14名で、町内小学校6年生から代表2名ずつ、中学校から3名ずつです。議会関係者は、議長、副議長。町当局は、町長、副町長、教育長ほか各課長となります。当日の日程をイメージしてみますと、土曜日の午後から子ども議員が集合して簡単な打ち合わせを行い、14時から開会宣言。議員の方からは今のところ2人を議長、副議長にし、12名10分の6名ずつという想定です。閉会をふまえて、教育長の講評を受けて、記念撮影で解散というような半日を目安に模擬議会を想定しております。続きまして、具体的な運営にかかわる部分です。質問内容は、誰もが安心して住みよいまちづくりという少し大きなテーマで、筑前町の地域の問題、将来のまちづくり、教育の問題、その他としています。将来こんな町になればいいなと子ども達が提言できるような内容をと考えております。選出と流れですが、各学校から推薦を受けて選出していただきます。実施にあたっては、全て学校におまかせというわけにはいかないかなと思います。議会事務局・教育委員会が事前研修を実施することを考えております。議場視察、議事の進行、議場でのマナーについての研修やワークショップを行い、子ども達が筑前町で何が今気になっているのかということ进行交流するような部分から自分の課題と思う提言を見つけていくための研修が必要ではないかと思っています。また、通告書を作成し、教育委員会に提出していただきます。一番大きな課題としては、通告書の作成及び実際の質問及び提言等についての指導でございます。ここを各学校で十分に指導を行っていただくよう依頼を行うか、議会の議員にそれぞれマンツーマンで指導してもらうような事前研修を行う等、通告書・質問に関わる事前指導というのが必要かなと思っています。その他としましては、送迎については町のバス、議事進行要領・事前研修の一部を議会に担っていただく。そして子ども達への還元については、ビデオ撮影し、各学校での社会科の学習等に活かしていただく流れを考えてみました。以上でございます。

町長

子ども達の負担が増えるだけでは、なかなか受け入れられないのではないかと私も少し思うところです。成果があればいいですが、なければその辺りがクローズアップされてくるということも考えられます。その辺の議論は何かされたのでしょうか。教育委員会として、立場的に意見があればお願いし

	ます。
教育長	<p>実際にやるとなれば、一定の成果があつてメリット面を続けていくことが必要だと思います。極限られた子ども達が参加しますので、いかに全体に還元できるかということも課題かなという風に思いますが、やってみるということについてはですね、悪くはないかなという風に思います。色々な町の取り組みとか自分たちの地域に対する関心が高まるいいきっかけにもなるでしょうし、体験することによってあるいは質問や説明することによって学力向上にも大きく繋がると思いますので、そういった面ではやってみることも必要かなという風に思います。</p>
町長	<p>こういったものは受け入れる体制が重要なんですね。聞くだけの聞きっぱなしだったら誰でもできる。ならば本当に真剣にそれをやるかと。やはりそれが見えてくるとこの議会はいきてくるのだろうと。子ども達としても言ったら通るよとか聞いてくれたとかなると、町に対する関心が高まってくるだろうと思うんですね。一応言ったよということではいけないんじゃないかなるかとも私もやるからには思います。私も一つ体験的に思うのは、東小田小学校で町長と語ろう会というのがあつて、ステージの上で子ども達7～8人と話し、あとの子ども達は下で座って聞いていました。その中で代表が質問をするんですが、その中で学区制の問題が出たんですね。非常にインパクトが強くて、辛抱しきれずに戦略プランに提案したということがありました。他にも聞いているとそうなんだよなと思ったり、それは無理だなとかというのはありまして、無理なことは無理と言ったら納得してくれました。ただ受ける方がしっかりとした受ける体制で受けないと単なるパフォーマンスで終わってしまうというところはあるんだろうと思っております。いい議論すれば町が動くんだなということが分かってくると思います。確かに今、子ども達が発言する場所が全くないですよね。まだ選挙権がないということもあるかもしれませんが、そういった意味ではこういったものも必要ですし、今政治家不足でもあります。子ども達の話も聞いていても、町議会議員になりたい、町長になりたいというのはほとんど出てきませんし、そういったものに少し光をあてることになれば、私共といたしましてもありがたいことです。</p>
砥上委員	<p>新宮中学校は議場で答弁させたと。これは初めての取り組みで、一番簡単な方法です。筑前町でもすぐに実行できます。なぜかという、生徒会の役員11名を出席させて、生徒会活動とか学校活動を議員や町の執行部が質問する。そして、子ども達に答えてもらう。これが一番簡単な方法ですね。埼玉県のある自治体では今年で21回目になるそうですが、具体的に各学校から子ども達を20名参加させ、もちろん議長もいて子ども達が色んな場面で議員や町の執行部に質問をします。そして、例えば文科省がすすめている100年先の教育を見据えた教育再生会議で、地元愛を育てる原動力になる子どもの育成という項目の中にあるとおり、また、筑前町の教育支援大綱の中にも教育は未来への架け橋であるとなっています。結局18歳で選挙権を得て、選挙権につ</p>

	<p>いて小学校中学校から考え、そして主権者として自覚と社会参画をどうしたらいいかということを見学・中学生の目で見学していくために、埼玉県のある自治体では、小学生からもう少し特産品をアピールしてほしい、中学生からは税金を増やすためにインターネットを使って若い人をどんどん来らせるようにしたらいいというような意見が出たそうです。また、あそこには横断歩道が必要だとかあそこの遊具をもっと増やしてほしい等、色々な提言が出たそうです。町の発展に貢献していると思います。やはり議場を見せたりすることで、議員になりたい・町長になりたいと思うかもしれない。そういうところが子どもの教育に非常にいいのではないかと思います。</p>
町長	<p>いかがでしょうか、それぞれご意見いただきたいと思います。</p>
藤田委員	<p>自分たちがこういうことに困っているんだとかですね、子ども議会の中で質疑する内容をしっかり検討することが必要だと思います。</p>
佐藤委員	<p>子ども議会の意義は十分わかるんですが、学校現場としてみれば、今の関心は、30年度以降の学習指導要領の移行措置をどうしていくのかというところに非常に頭を悩ませている現状だと思うんですね。ここの提案では、なるべく学校に負担がかからないようになっていると思います。あまり負担がかからないように行えるというところでは賛成します。</p>
矢野委員	<p>学校に負担がかからないように行うのもいいかもしれませんが、代表の子どもとクラス等で話し合いをし、代表の意見としてもってきてもらった方が色んな子ども達の意見があると思います。そうなればどうしてもクラスで話し合いなりしないといけないので、先生たちには負担がかかってしまうのかなとは思いますが、今後こういうのを続けていくのであれば、多くの子ども達の意見を取りまとめて議会にもっていく形にした方が子ども達にとっても自分たちが話し合った意見が話されているという気持ちになるのではないかと思います。</p>
町長	<p>それこそ来てもらうということではなくて、こちらから出向いて行くということもいいのではないかと思います。そういった方法もないことはないですね。あまり負担をかけずに。議会を見ることに意義があるのであれば議会で行った方がいいんですが、話を聞くことに目的があるならば、出向くこともありだと思います。私が最近しているのが、成人式の実行委員とまちづくりの意見を話すことです。成人式の実行委員を選ぶのは大変で、成人式だけで終わらすのはもったいないんです。そして、話すときすごいですよ。その場で答えてくれるんです。それで地方創生の構成員に入ってもらったということもありました。ただ、子ども達に議場を見てもらいたい気持ちもあるんですね。</p>
砥上委員	<p>そうですね。</p>
教育長	<p>議場でこういった形で行う方法と、今町長がおっしゃられたこちらから現場に行き行ってそこで子ども達の意見を聞くという方法もあって、そうすれば他</p>

	<p>の子ども達も同じ場で体験することができる。そういった面で、特定の子どもに限ることと、広くするというメリットデメリットがあるなど。以前三輪の時に小学校で、それぞれの議員がクラス等の意見を取りまとめた行ったことがあります。学校に負担がかかりました。その後中学校でやるときには、全生徒集めて、執行部とかが全員参加して、子ども達の色々な意見を聞いてお答えするというようなやり方を2つ行いました。両方どちらとも効果があるなどというふうに思いました。</p>
町長	<p>東小田小学校に行ったときは、特段それだけの集まりとかではなく、何かと一緒にという感じでしたよ。議会の意見を問題提起として、更なるものがあればそれにこしたことはない。議会に限定せずに子ども達のためになるようなことをしていきたいと思っています。我々が出向くことについてはいっこうに構わないということです。何か子ども達には、筑前町ならではのことを知ってほしいし、学力の向上も図ってほしい。子ども議会については、負担がかからない程度に柔軟に考えて何かやっていくということですね。何か具体的な意見がありましたら、率直に言っていただいた方がいいと思います。それでは議題については以上です。</p> <p>他にこの場で話した方がいいということがありましたら、よろしくお願ひします。</p>
全員	(特になし)
町長	<p>はい、それでは今日の議題としては終わりました。この会議を経て子ども達にとってより良くなったとか、また成果が出るように、これからが大事だと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
齊田係長	<p>5番のその他ということですが、皆様何かございますでしょうか。ないようですので、これで閉会します。</p>
	(閉会 15:00 )

上記会議の経過を記載し

その相違ないことを証するために署名する。

議事録署名人 \_\_\_\_\_

議事録署名人 \_\_\_\_\_